

米国金融政策（2020年9月）

金融政策の新たな枠組みを反映した金融緩和の実質的な強化

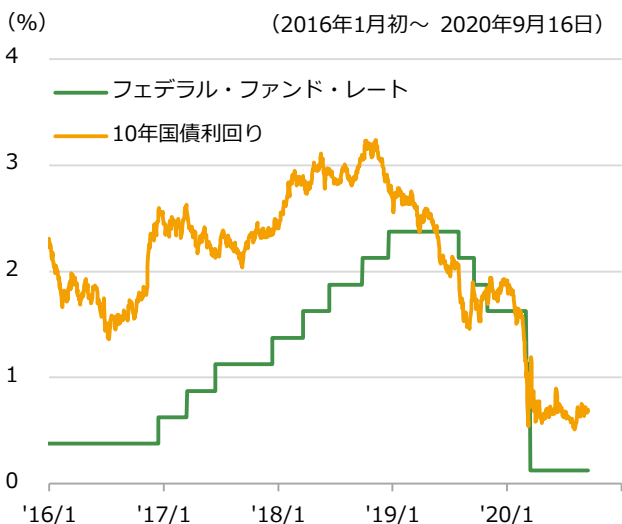
2020年9月17日

政策金利のフォワード・ガイダンスの修正、ゼロ金利政策の長期化

2020年9月15・16日（現地、以下同様）に開催されたFOMC（米国連邦公開市場委員会）では、政策金利であるフェデラル・ファンド・レートの誘導レンジが0～0.25%に、国債とMBS（住宅ローン担保証券）の購入額もそれぞれ月800億米ドル、400億米ドルに据え置かれました。しかし、8月の臨時FOMCで決定された新たな金融政策の枠組みを反映して、声明文は大幅に変更されました。インフレ率が平均して2%となり、長期のインフレ期待が2%でしっかり定着するよう、ある程度の期間2%を緩やかに上回るインフレ率の達成を目指す方針の下、政策金利のフォワード・ガイダンスは、FOMCが考える最大雇用と整合的な水準まで労働市場が改善し、インフレ率が2%に上昇し、2%を緩やかに上回る軌道に乗るまで、現在のレンジを維持するのが適切との内容に改められました。資産購入についても、市場機能の維持だけでなく緩和的な金融環境の醸成を、目的として追加しています。ただし、目標達成を妨げるリスクが生じる可能性があれば金融政策姿勢を適切に調整する用意があるとし、金融の安定性への配慮を渗ませました。

FOMC参加者の経済・金利見通しからは、2023年10-12月期に失業率が4%へ低下し、インフレ率が2%へ上昇する中でも、なお現在のゼロ金利政策を継続する意向が示されました。声明文の変更と合わせて、金融緩和の実質的な強化と考えられ、ゼロ金利政策の一段の長期化が見込まれます。

政策金利と長期金利



※フェデラル・ファンド・レートは誘導レンジの中心を表示

(出所) ブルームバーグ

FOMC参加者の経済・金利見通し（中央値）

	2020	2021	2022	2023
実質GDP成長率	▲3.7	4.0	3.0	2.5
失業率	7.6	5.5	4.6	4.0
インフレ率	1.2	1.7	1.8	2.0
FFレート	0.1	0.1	0.1	0.1

※実質GDP成長率、インフレ率は10-12月期の前年同期比

※失業率は10-12月期の平均

※FF（フェデラル・ファンド）レートは誘導レンジの中心

(出所) FRB（米国連邦準備制度理事会）

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。